

調査事例紹介:その27 熊野田の名の由来と イチョウのこぶ 編



豊中市立図書館には、毎日いろいろな調査の依頼が届きます。
そのうちの一部をご紹介します。

Q. 豊中市北東部にあった旧村名「熊野田（くまのだ）」の地名は、和歌山の熊野大社にゆかりがあるの？

A. 『日本歴史地名大系 28 大阪府の地名 1』（平凡社）の「熊野田村」の項目（p.281）によれば、慶長 10（1605）年の摂津国絵図にはこの地は熊田村と記されていたとあります。また、熊野町にある「宝珠寺」の項目（p.282）に、『摂津名所図会』の引用があり、これによると花山法皇が仏眼上人に命じて熊野権現をこの地に勧請したため、宝珠寺の山号が熊野代山、村名が熊野代になったといい、これが書きなまって熊野田になったといういわれが紹介されています。

『大阪府全志 巻之三』（p.1245）の「熊野田村」の項には、もとは熊野代村といったが後になまって熊野田村になり、俗には「くまんだい」とも言うことがあります。ここでも、花山法皇が仏眼上人に命じて、紀州熊野山に模して建立した寺を熊野代山と号したことからと書かれています。

Q. 近所のイチョウの大木にある、こぶのようなものはいったい何？

A. 『ワイド図鑑 身近な樹木』（主婦の友社）p.112-113の「イチョウ」に幹や枝からこぶ（乳）が垂れたイチョウの写真と、気根の一種であると記載があります。『巨樹と樹齢』（新風舎）p.26「上高野山の乳下りイチョウ」に、イチョウの木の乳房に似たこぶは、不定芽や発育を害された短枝、発育した潜伏芽に起因し、内部には柔らかい細胞や過分の澱粉を貯蔵していると紹介されています。

この2つの事例についてくわしく知りたい方は、豊中市立図書館のサイトの「レファレンス事例をさがす」のページから、フリーワード「熊野田 熊野大社」または「イチョウ こぶ」で検索してみてください。